

学ぶ楽しさと充実感を味わう算数教育の創造

研究の重点； つけたい力を4つの観点から明確にした単元構成のあり方
ねらいにせまる単位時間の在り方

～こどもの学びと算数的活動の在り方～

七宗町立上麻生小学校 歌橋 洋一

1. 主題設定の理由

学ぶ楽しさと充実感というのは、いつも心がけていながらも、達成できたという満足感はなかなか持ちづらいと感じている。

自分が担任しているクラスの実態としては、活発に疑問や意見を交流して考えを深めていくというよりは、じっくりと取り組んで自分の考えを持とうとする児童が多い。活発な児童は多くはないが、学習に対する意欲を持っている児童が多いため、その意欲を生かして学習を進めていきたい。また、少しでものびのびと自分の考えを表現できる児童が増えてほしいと願っている。この願いを実現させるために、小算研のテーマを受け、本主題で研究を進めることとした。

2. 研究の仮説

仮説 ； 4観点からねらいを明確にした単元指導計画にそって実践を行えば、確かな学力をつけて充実感を味わうことができる。

仮説 ； 単位時間の中に適切な算数的活動を位置づければ、学ぶ楽しさと充実感を味わうことができる。

3. 研究の内容

仮説 ； に沿って、次の内容で研究を行うこととした。

- 1. 単元を通して必要となる基礎的な力を定着させるための時間を設ける。
- 2. 単位時間における観点別評価を明確にした単元指導計画を立てる。
- 3. 前後の学年の学習内容との系統性を明らかにする。
- 1. 算数的活動を保障するための教具の工夫をする。
- 2. 個人での追求が可能な算数的活動を位置づける。
- 3. 単位時間のねらいに迫るための交流の仕方を工夫する。

4. 実践の内容

5年生の『合同な図形』の単元を通して、以下の実践を行った。

実践 - 1；コンパスや分度器の使い方を定着させるための時間を1時間確保した。

合同な三角形を3種類の方法でかくことができるように、1時間を位置づけた。

実践 - 2；4観点からつけたい力を明確にし、その中から、単位時間におけるねらいを絞り込んだ単元指導計画を作成した。

実践 - 3；平面図形に関して学習内容の系統性を調べた。

実践 - 1；線を引くための道具としての線引きを利用した。

問題であると同時に問題解決の確かめもできるような透明シートを利用した。

実践 - 2 ; 全員がどれか一つの方法で合同な三角形がかけられるように時間を確保し、支援を行う。

自分のかいた合同な三角形のかき方を、ノートに筋道を立てて説明を書く。

実践 - 3 ; 色画用紙で三角形の辺や角になるものを準備して、それを用いて合同な三角形のかき方を交流する。

5 . 成果と課題

道具の使い方の定着を図る時間を単元指導計画の中に入れたことにより、道具の使い方をつまづく児童がいなくなった。

4 観点から、単位時間につけたい力を明確にすることで、ねらいを絞った授業が展開できた。

系統性を明らかにすることで、今後の指導に生かすことを意図して、単元指導計画を作成できた。

線引きや透明シートなどの教具を工夫することで、本時のねらいにせまる活動を行うことができた。

一人ひとりが図をかききることによって、やりきった充実感を得ることができた。

色画用紙を使って交流の仕方を工夫することで、本時のねらいとするまとめにせまることができた。

個人追求の段階で、自分の図に色分けする活動を仕組みれば、言葉で説明しづらい児童も、本時のねらいにせまりやすくなっただろう。

全体交流の前に小集団で交流する活動を仕組みれば、児童の意欲がさらに生かされただろう。

6 . 研究会を通して

・基礎的な力とは何か

基礎・基本というと、つい知識理解や表現処理に偏ってしまいがちになってしまう。しかし実際にはそうではなく、算数の授業では、数学的な考え方こそ最も大切にしたい。数学的な力をどこで身につけさせるかを単元指導計画に位置づけ、単位時間のねらいの中にも、「～に気づき、」だとか「～の考え方で、」といった表現で位置づけるように努める。そうすることによって、基礎・基本となるような数学的な考え方が身に付いていくだろう。

・繰り返し指導すべきこと

算数は系統的な学習であるため、繰り返し指導をして定着させるべき内容もある。しかし、こういった繰り返しの指導については、どんな場面でどんな活動が必要になるのかよく吟味する必要がある。ときには、前学年の学習内容であっても、その単元の学習に必要な内容であれば復習の時間を位置づけることもあるが、このような時間を『考え方の復習』の時間として、単元指導計画に位置づけたい。

・学ぶ楽しさや充実感を得るために

学ぶ楽しさや充実感を得るためには、算数的な活動の中に、算数の本質に関わった質の高い追求が求められなくてはならない。また、自分自身や他から認められるような活動を位置づけることによって、学ぶ楽しさや充実感を得ることができるだろう。